

ふるさとのお話

柏原のキツネ山

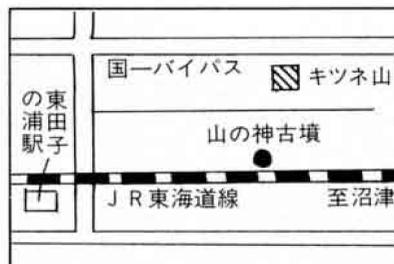
元吉原地区の柏原に、キツネ山と呼ばれる所があります。ここには昔、キツネが住んでいて、たくさんの方が化かされました。今回は、中柏原新田の高木博さん（七十九歳）に伺った「キツネ山」のお話です。



昔は火葬場

JR東田子の浦駅の東側、菊栽培のハウスが建ち並ぶ間に、三十坪ばかりの荒れた土地があります。ここは、キツネ山と呼ばれ、約三十年ぐらい前まではこの地域の火葬場となっていました。火葬場といっても現在の斎場のように立派な施設ではありません。野天で、薪を組んでお棺を乗せ、長い時間をかけて火葬をした場所でした。

また、近くに家はなく、周りは麦などの畑になっていました。昔々のこと、キツネ山のそばで麦をつくっている松さんが、夜おそくなっても家に帰ってきません。「どうしたんだらう」心配した漁師の源さんたちが捜しに出かけました。「松さん、松さんやーい」と、呼びながらキツネ山まで来ると、近くの麦畑がガサガサ揺れています。なんと松さんは麦畑の中をぐるぐるはいずりながら、「あー深い、あー深い」と



高木博さん



現在のキツネ山



言い、泥だらけになっているではありませんか。

「松さん何をしてるんだ！」源さんが大声でどなると、松さんはキョトンとした顔をして我に返りました。松さんは、キツネに化かされたのでした。

ようし、おれが……

それから、キツネに化かされた人が相次ぎました。源さんは「ようし、おれがキツネを取っ捕まえてやる」と勇んで、キツネ山に出かけていきました。ところが、いつまでたっても帰ってきません。村人が見に行くと、源さんも「あーこの川は深い。あぶ、あぶ」と、すっかり化かされていました。

あなたの生活便利メモ⑦

気分は一流選手

十月十日、装いを新たにオープンした総合運動公園（大淵）の陸上競技場。赤茶色のウレタン舗装トラックに、フィールドの芝生の緑が美しくマッチしています。

ここを走れば、気分はすっかり一流選手。しかも、富士山に向かって走れる競技場となれば、日本広しといえど富士市の陸上



山本恒雄さん



競技場だけです。競技場職員のみ山本恒雄さんは「専用で使用されていなければ、個人の使用もでき、使用料は一回二百円（高校生以下は百円）。走りよいと好評です」と話します。

また、十二月十五・十六日にはサッカーの天皇杯予選も行われます。お楽しみに。詳しくは、☎三五〇一五一へ。

こちら編集室

新年から広報無線放送が、時報と放送各1回になります。編集室の紅一点で、ウグイス嬢のNさんは「朝の放送がなくなったせいで遅刻した」なんて言われなにかしらと心配顔。

「うるさい」という声に配慮したのですが、一番の理由は、静かな空間の創出。考えてみれば、私たちは、騒音の中にいるようなものと思いませんか。（妻のいびきに悩む夫）



遊々タイム

……………⑦

【ミカン石けん】

暮れの大掃除に、何を使おうかと迷っている人にお勧めなのが、手づくりのミカン石けん。

てんぷら油などの廃油と苛性ソーダ、それにミカンの皮を使ってつくる石けんは、一番大変な換気扇の汚れ落としに威力を発揮します。石けんをつくる手間は、1時間30分。経費は、苛性ソーダを買うのに350円。

少しの量で汚れが落ち、手も荒れない、いいことづくめの石けんの作り方を、「都合のつく限り講習に向きます」と、出血サービスで呼びかけているのが、森島の若林喜代子さん。

4、5人のグループで、一度つくってみませんか。